

技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

令和7年12月9日第5校時

中学校 2年 組 名

1 題材名

「安全で快適な住まいを目指して」 B (6)

2 題材設定の理由

近年、少子高齢社会の進展や核家族の増加により、住まいは一戸建て住宅だけでなく集合住宅が増加してきた。核家族世帯や単身世帯の増加、シェアハウスといった新たな居住形態など、住まい方も多様化している。また、毎年のように各地で自然災害が発生しており、その被害を防ぐ対策を行うことが重要視されている。これらのことを踏まえ、社会や自分のライフステージ・自分と家族のライフスタイルの変化に対応しながら、共に生活する人全員が安心して快適に暮らすことができるように、家庭内事故や自然災害による被害を防いだり、共に生活する家族に配慮したりするなど、住空間の整え方を工夫する力を身に付けることが必要である。

本学級は、明るく活発で、何事にも前向きに取り組もうとする生徒が多い。授業に真剣に取り組む雰囲気をつくることができており、グループ活動においても積極的に意見を交流する姿が見られる。

令和7年10月に2年生180人を対象にアンケートを実施したところ、次のような結果が得られた。快適に過ごすために大切だと思うポイントは「安全」が52.8%と最も多く、「空気・換気」「温度」「清潔さ」が続いた。「明るさ」や「湿度」「音」が大切だという回答は10名以下だった。また、家の中で怪我をしたり危険な目に遭ったりしたことがあるかという問いに「ある」と回答した生徒は44%だった。しかし、その後「ある」と答えた生徒の具体的なエピソードを紹介すると、「ない」と回答した生徒の中から「それなら自分もある」という声が複数聞かれた。家庭内での怪我を防ぎ、危険な目に遭わないための方法については、48.9%の生徒が「知らない」と回答した。「知っている」を選んだ生徒に対し、その方法について具体的に問うと「机の角にクッションをつける」「家具を固定する」「整理・整頓する」等の回答が見られたが、「歩かない・動かない」「具体的にはわからない」という回答もあった。以上の結果から、生徒の実態として、自分が経験したことが「危険」であると気付いていないことや、怪我や事故を防ぐための適切な予防や対策ができていないことが明らかとなった。

本題材では、住居の基本的な機能や室内環境の整え方・家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について学習する。生徒が課題を発見しやすいように事前アンケートを実施し、第1時間目には自分の住生活の振り返りを行い、課題を設定した。また、アニメに登場する住まいや家族を例に挙げ、日本の住まいの移り変わりや年齢による住まい方の変化をイメージできるようにして学習を進める。

本時では、既習内容を活かし、自分の住まいの危険に目を向ける。自分が生活する住まいで予測される危険とその対策・予防について考えることができるようにする。話し合い活動を行うことでいろいろな人の意見に気付き、思考を深められるようにしたい。また、住まいの中で予測される危険の内容に着目し、住まいの様子については触れないようにするなど、生徒のプライバシーには十分配慮す

る。実際に自分の身近に起こり得る危険を予測し、対策・予防の具体的な方法を複数考えることで、安全で快適な住生活の実現に向けて、工夫し実践できる生徒を育てたいと思い、本題材を設定した。

3 題材の目標

- (1) 家族の生活と住空間との関わりや住居の基本的な機能、家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解する。 (知識及び技能)
- (2) 家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。 (学びに向かう力、人間性等)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解している。 ・ 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。 	家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

5 指導と評価の計画（全8時間）

- (1)私の住生活 1時間
- (2)健康で快適な住まい方 2時間
- (3)安全で安心な住まい方 3時間
- (4)安全で快適な住まいを目指して 2時間（本時1/2時間）

小題材	時数	○ねらい ・学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
私の住生活	1	<p>○家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住まいがなかったら困ることや生活に必要な空間を話し合う。 ・住まいの役割や、自分や家族の生活と住空間との関わりについて考える。 <p>○自分や家族が健康・快適・安全な住生活を送ることについて問題を見だし、課題を設定することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートの結果や住まいの役割から住生活の課題を設定する。 	<p>①家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノート 	<p>①家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用シート 	
健康で快適な住まい方	2 3	<p>○健康で快適な室内環境について理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アニメに登場する住居を例に挙げ、日本の住まいの特徴や気候風土との関わりについて考える。 ・生活で不快に感じた経験や家族の意見を踏まえ、健康で快適に住むための室内環境について話し合い、発表する。 	<p>②幼児や高齢者など様々な年齢で構成される家族が、安全に生活できるよう住空間を整える必要があることについて理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノート 		<p>①家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用シート

安全で安心な住まい方	4 5 6	<p>○家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族が経験した住まいでの危険を振り返り、危険な目に遭わないための方法を考える。 ・家庭内の空間で予測される危険と家庭内事故を防ぐための対策を考え、グループで話し合い、発表する。 ・校区の自然災害(地震・津波)の被害想定を共有し、災害への備えと対策を考え、グループで話し合い、発表する。 	<p>③家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノート 		<p>②家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用シート
安全で快適な住まいを目指して	7 (本時) 8	<p>○自分や家族の安全と快適さを考え、住まいの整え方を考え、工夫することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の生活とこれまでの学習を踏まえ、どこでどのような危険が予測されるかを考える。 ・危険を防ぎ、安全で快適に過ごすための方法を考え、共有する。 <p>○考えた計画について、課題の解決が図られているかを振り返って評価し、計画を改善することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の計画についてグループで発表し合い、アドバイスをする。 ・意見交換から自分の計画を見直して、改善し、アップデート計画を考える。 		<p>②家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用シート ・ワークシート <p>③家族の安全を考えた住空間の整え方について実践を評価したり、改善したりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用シート ・ワークシート <p>④家族の安全を考えた住空間の整え方について課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用シート ・ワークシート 	<p>③家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、工夫し創造し、実践しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用シート

6 本時

(1) 目標 自分や家族の安全や快適さを考えた住空間の整え方について考え、工夫することができる。

(2) 展開

時間 (分)	学習活動	指導の手立て	評価規準・ 評価方法
3	1 本時の学習課題を確認する。	○本時の学習課題と学習の進め方を確認し、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。 ○スライドを活用し、考える視点をもつことができるようにする。	
自分や家族が安全で快適に過ごすためにはどうすればよいだろうか。			
3	2 前時までの学習を振り返る。	○これまでの健康で快適な室内環境や家庭内事故の防ぎ方・災害への備えの学習内容を確認する。	
10	3 自分の住まいについて、どこでどのような危険が予測されるかを考え、発表する。	○健康と安全（家庭内事故・災害）の視点でどのような危険が予測されるかを考えることができる生徒の意見について広げる。	
16	4 3で考えた危険な場所について、どのような対策ができるのかを検討する。	○どのような危険をどのように防ぐのかを具体的に検討するように助言する。 ○1つの場所でも複数の危険が予測できることを確認し、それぞれの危険に対し、できる対策を考えるように助言する。 ○自分や家族の生活のしかたを考えて、安全に過ごせる方法を考えるように助言する。	
13	5 各自が考えた危険と対策をグループで共有し、アドバイスし合う。	○グループで共有することで、多様な意見とその対策に触れることができるようにする。 ○住まいの様々な危険を予測し、対策することの大切さに気付くようにする。	家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。 (思考・判断・表現)
5	6 活用シートに振り返りを記入する。	○1時間目に設定した課題を解決するための方法を考え、工夫することができたか確認する。 ○次時は、今日考えた計画をアップデート(改善)することを予告する。	【ワークシート・活用シート】

(3) 評価

「十分満足できる」状況(A)と判断される状況	快適に過ごすことができる室内環境や家庭内事故の防止・災害への備えという視点から、自分の住まいの危険箇所に気付き、実現可能な対策・予防方法についての具体案を、根拠をもって複数考え表現することができる。
------------------------	---

	<p>[例]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭内事故の防止 危険：洗面所に洗剤や柔軟剤が出しっぱなしになっていることがある。幼児が嚙んでしまったり、間違っって食べてしまったりするかもしれない。 対策：洗剤の収納ケースを用意して、幼児の手が届かない洗濯機の上の棚に収納するようにする。また、家族全員でそのルールを共有して、守るようにする。 ・災害への備え 危険：地震が来ると揺れで飛んできたものによって窓ガラスが割れるかもしれない。今、窓の横で寝ているので、寝ているときに地震が来てガラスが割れると怪我をしてしまう。 対策：ベッドの配置を窓から離れた場所に変え、避難するときに履くための靴を近くに用意する。もし窓が割れてしまってもガラスの破片が飛び散らないように、家族と相談して飛散防止フィルムを買って貼る。
<p>「おおむね満足できる」状況(B)を実現するための具体的な指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族が実際に危険な目に遭った経験を思い出し、その危険を防ぐためにどのような工夫ができそうかを考えてみるように助言する。 ・共有した意見を参考にし、自分の住まいでの対策に生かせるものをワークシートに記入するように促す。